

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

小岩第二中学校

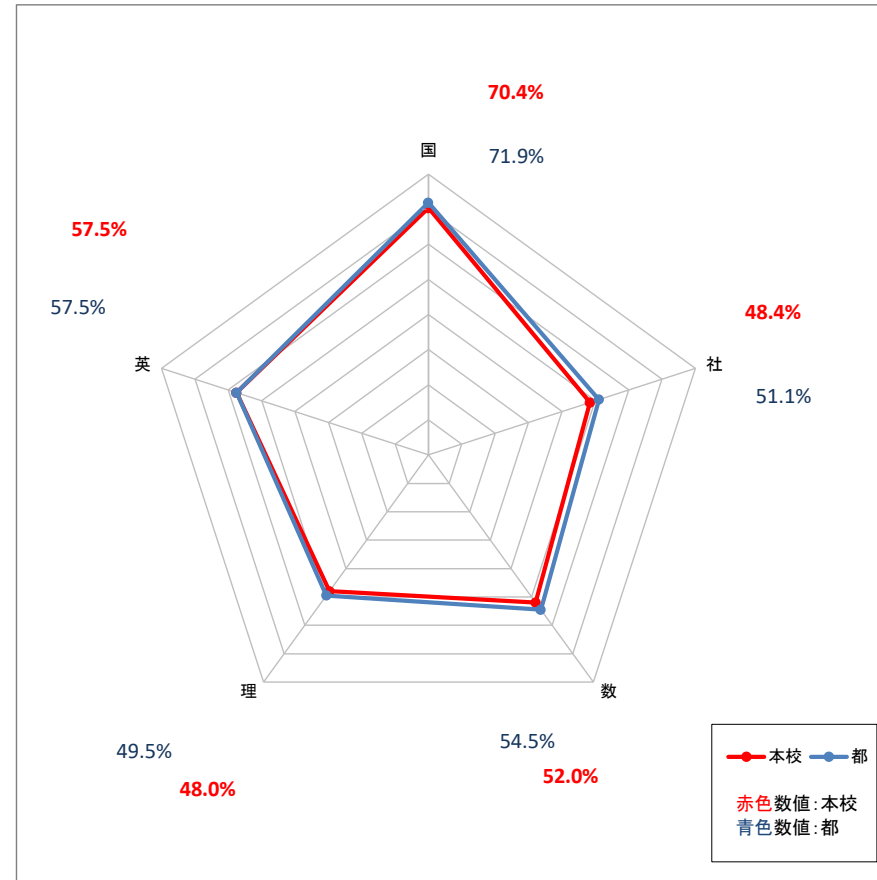
国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	74.8%	58.9%	79.3%	69.1%	71.9%
本校		57.5%	78.5%	67.0%	70.4%
都との差	#VALUE!	-1.4	-0.8	-2.1	-1.5

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
東京都	48.7%	61.9%	41.1%	51.1%
本校	46.2%	58.4%	39.1%	48.4%
都との差	-2.5	-3.5	-2.0	-2.7

数学	教科の観点			教科の合計
	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	
東京都	31.4%	62.4%	63.3%	54.5%
本校	27.1%	58.2%	65.4%	52.0%
都との差	-4.3	-4.2	2.1	-2.5

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	43.9%	60.2%	47.4%	49.5%
本校	42.1%	58.6%	46.1%	48.0%
都との差	-1.8	-1.6	-1.3	-1.5

英語	教科の観点			教科の合計
	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
東京都	46.1%	62.4%	59.2%	57.5%
本校	48.3%	59.0%	63.7%	57.5%
都との差	2.2	-3.4	4.5	0.0



《都との比較にみる本校の状況》

【国語】授業を含む学校生活全般において語彙力の不足が懸念される。指導者の話しや読んだものの内容を十分に理解できない生徒が少なからず存在する。
 【社会】全観点で東京都の平均正答率を下回っているが、特に「資料活用の技能」の力が大きく及んでいない。表やグラフを扱いたないことが原因と考えられる。
 【数学】文章題を含む、応用問題に対して苦手意識を強くもっている。また、見直しをする習慣が身につけていないため計算ミスも多い。
 【理科】科学的な用語を使って実験・観察結果を分析し、説明する力が不足している。このことが、「科学的な思考・表現」において都と差が開いている原因と考えられる。
 【英語】英語の学習において、語彙力の正しい運用力がまだ不十分であると思われる。個人の英語を書く学習量が他の学習内容と比べると、不足していることが原因と考えられる。

《授業改善のポイント》

【国語】教科書の文章だけでなく、新聞やその他の文章も取り入れ、生徒が新たな語彙を獲得できるような時間を積極的に確保する。漢字の練習は生徒が意味を把握したうえで行うように指導する。
 【社会】表やグラフを扱う授業を意図的に増やしていく。表やグラフを実際を書く作業を取り入れたり、読み取らせた内容を考察につなげさせたりと工夫していきたい。
 【数学】自ら考える時間を増やし、難しい問題にも積極的に挑戦させる。また、その都度見直しの声かけを行い防げるミスを減らしていく。
 【理科】授業中の生徒への発問を工夫して、「科学的な専門用語」を用いて説明させる。そして、定期考査で生徒の「科学的な思考・表現」に改善がみられたかを振り返る。
 【英語】毎回の授業の中で、短時間でも英語や英文を書く学習を行っていき、書く作業をする中で、正しい語彙力や英作文力を付けていきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

本校は落ち着いた状態で授業が行われ、授業規律は確立している。授業には前向きに取り組む生徒が多い一方、その場だけの学習で定着まで結びついていない生徒も多い。加えて全体として学習量は少ないと感じる。
 家庭で取り組む内容として毎日の家庭学習ノート、教科による宿題などで家庭での学習の定着を促すとともに、長期休業を利用した補充教室や土曜スクールなどで学習の場を設けている。それらの取り組みについて学年通信や保護者会等で家庭に働きかけている。さらに学力向上の一環として英検・漢検・数検などの検定を校内で実施し、家庭に積極的な受検の呼びかけを行っている。
 今後はeライブラリなどのパソコン教材を使った家庭学習などの啓発を行っていきたい。
 また、地域への働きかけとしてはユニセフ募金や土手清掃ボランティアなどのボランティア活動への参加を行っている。思いやりの心や態度を養うとともに、郷土愛を育み、地域の一員として地域に生きる喜びや生きがいを感じる心を育成する。